

全校朝会 「 オリンピック・パラリンピックから学ぼう

—金栗四三選手を支えた言葉—

令和8年9月8日（火）

奥沢小学校長 前田 恵里

今日ははじめに6年生の宿泊行事について紹介をします。～略（日光林間学園の写真をしながら6年生の成長を紹介）～

2学期が始まりました。2学期は大きな行事がありますね。まずは運動会です。そこで、今日は「オリンピック・パラリンピックから学ぼう」シリーズです。ちなみに、次のオリンピックは何年で、どこで行われるか知っていますか。次は2年後の2028年、ロサンゼルスで開催されます。



これは、今から110年ほど前、日本の駅伝大会や42.195kmを走るマラソンの基礎を築いた金栗四三選手の写真です。7年ほど前のNHK大河ドラマ「いだてん」の主人公として、知っている人も多くなりました。金栗選手は、20歳のときにマラソン選手として日本で初めてオリンピックに出場した人でもあります。1912年第5回ストックホルム・オリンピック大会でした。この大会ではもう1人、短距離走の三島弥彦選手がいて、この2人が日本で初めてのオリンピック選手になります。

マラソンの金栗選手は、オリンピックの前の年の予選会で、当時の世界記録を27分も縮める新記録を出したので、日本中の期待を受けストックホルム・オリンピックに出場しました。しかし、マラソンが行われた日は、大変に暑い日で、途中で水分補給を上手にできなかったなどの様々なことが重なり、レースの途中で意識不明になりました。ゴールすることさえできず、近くの民家にかつぎこまれた金栗選手は、翌朝その民家で目を覚ましました。金栗選手は多くの人の期待に応えられなかった自分を責め、生きているのがつらいと本気で思ったほどでした。しかし、そんなときに彼を支えたのが、恩師でありこの大会の団長を務めていた嘉納治五郎の「人間は結果ではなく、目標をもつことが素晴らしい。」という言葉でした。

そして、金栗選手は再びオリンピックを目指しました。次の大会は万全を期したのですが、戦争のため中止。その後も目標を忘れず努力を重ね、2回連続してオリンピックに出場しました。メダルは獲得できませんでしたが、16年以上の長い間、ずっと走り続けたのです。凄いことだと思います。金栗選手の残した有名な言葉に「体力、気力、努力」があります。

さて、将来、夢ある未来を創るためには、常に目標をもち続けることが必要です。目標や夢をもつことで、人は成長することができます。運動会だけでなく、日々の学習でも目標やめあてをもって取り組んでいきましょう。

今日はもう一つおまけの話をします。金栗四三が74歳のとき、ストックホルムから招待

状が届きます。「あなたは、ストックホルム・オリンピックで競技場を出発したままになっています。ぜひ、ゴールしてください。」というものでした。こうして、20 歳で 競技場をスタートした金栗四三は 74 歳でゴールを果たしました。「5 4 年 8 か月 6 日 5 時間 3 2 分 2 0 秒 3」の記録は、マラソン世界最遅記録として残されています。